

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890200037
法人名	社会福祉法人 興風会
事業所名	グループホーム ステラ
所在地	愛媛県今治市大西町紺原1166番地 1
自己評価作成日	平成26年11月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>やわらかく暖かい空気感を感じ、穏やかにあんきに生活できるよう支援しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>近所の薬師堂や弁天様に毎日お参りに行く方があり、お賽銭をあげる方もいる。食材の買い物時には、職員と一緒に行って、おやつや日用品、自分の食べたいものを買ったりされている。梅、サクラ、バラ等、季節の花を楽しみに出かけたり、法人施設のカラオケルームに出かけてカラオケを楽しむこともある。年2回火災想定で避難訓練を実施しており、訓練前には、ホーム長が消防署に向かい、出火場所や避難方法等についてアドバイスをもらっている。 「スマイル工場委員会」を月1回持ち、理念である「笑顔であんきな生活」につながるような勉強会が行われている。事務所前の廊下には、職員のプロフィールと顔写真が掲示されており、ポケットには「サンキューカード」が入っていた。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム ステラ

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)

氏名 吉井 恵美子

評価完了日

平成26年11月17日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所理念の意識付け・実践の為フロアの目につきやすいところに掲示している他、朝礼での復唱を行っている。スタッフが常に笑顔でいることにより利用者様も笑顔になり居心地の良い場所づくりをしている。	
			(外部評価) 「笑顔であんきな生活」という事業所理念を額に入れて居間に掲げてあり、管理者は、ミーティング時等には、理念と照らし合わせながらケアについて考えられるよう話しておられる。職員は、業務が忙しい時には、特に「笑顔であるか」と確認しながら取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近所の薬師堂での念仏講に参加している他、保育園からお餅つきや行事訪問に来てくれたり交流を図っている。将棋のお相手や地域の祭りなどに誘っていただいたり、お隣の美容師さんも出張で来てくれている。	
			(外部評価) 散歩時に、近所の方から「気をつけてね」等と声をかけてもらうようなこともある。近くの保育園から、お遊戯会のリハーサル見学に誘ってもらった際には、出かけられるよう支援された。近所に住むご家族の方が芋ほりに誘ってくださり、お芋のお土産をもらって帰ったこともある。又、近所の方が野菜を持って来てくださることもある。法人で開催する介護教室や秋祭り時には、利用者も参加して地域の方と交流されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) お隣の美容師さんに入っていたり、近所の方が将棋の相手に寄って下さったりした折、ホーム内の様子を感じていただくこと。又、日々、近くのマーケットに買い物に出掛けたりすることで、地域の方に少しでも認知症の理解が得られるよう配慮している。家族会にて認知症サポーター養成講座も行ったこともある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 二か月に一回運営推進会議を開催し、事業所の活動を報告し、それに対する意見交換や、地域の情報をいただいたりしている。参加された利用者様からは会議では出なかった意見なども後から聞くことができサービスに活かすことができている。	他のご家族にも会議内容を報告する等、会議の意義等についても知っていただき、会議参加をすすめてはどうだろうか。管理者は、ご家族に送付する事業所新聞に会議内容を要約して載せることを考えておられた。
			(外部評価) 会議は、併設の小規模多機能施設と合同で開催されている。会議メンバーは決まっており、ご家族からは1名の方が参加されている。活動は、画像で報告しており、参加した利用者から「塗り絵をみんなに見てもらえてよかった」と感想があったようだ。会議録は、次回の会議案内時に同封されている。将棋が得意な会議メンバーの方が利用者の相手をしてくださったたり、将棋がお好きな知人を紹介してくれて、時々利用者のお相手として訪問してくださっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加して頂いている他、認知症介護に対するホームの取組みを理解していただくため情報や計画のやり取りを行っている。日ごろからもよく連絡を取り合っており、問題等にも相談させていただいている。	
			(外部評価) 運営推進会議時、市の担当者は、活動報告を受けて感想を話されたり、介護保険のパンフレットを持参して、サービスの種類や利用の手順等を説明してくださったこともある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 施設内外の研修、書籍等で学ぶ機会を持ち虐待防止の意識を深めている。夜間以外玄関の施錠はしていない。身体拘束はない。特にスピーチロックを行わないような声かけをするよう努めている。	
			(外部評価) 職員は、法人内研修会や外部研修時に勉強し、身体拘束をしないケアに向けた取組みに努めておられる。目の不自由な方には、ベッドから降りたら職員がわかるようにセンサーを使用している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 施設外の研修、施設内での勉強会などや書籍等で学ぶ機会を持ち虐待防止の意識を深めている。どのようなことが虐待に当たるのか、それに対して通報する義務があるということや、それらが利用者にとってどれくらい悪影響であるかということ意識付けることによって、虐待やそれに近い言動を行わないよう注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 折々の機会に話題に出したり、外部研修にて学んだものを施設内研修、資料回覧などで学ぶ機会を持っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には質問しやすい雰囲気づくりを意識し丁寧に説明をするよう心がけている他、資料などを用意し介護保険や施設利用に対し解り難い説明にならないように配慮している。解約時にも今後の不安などが少しでも軽減されるよう、その後が困らないように相談にのるなどしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者様においては日々の関わりの中から、思い・要望を汲み取るような対応を行うようこころ掛けている。ご家族様に於いては面会時には出来るだけゆっくりと話しを伺えるような場をつくっており、関係も良好で気軽に意見等を聞くことができていると思う。 (外部評価) 年1回「家族会」を開催しており、今年3月の家族会には、10名のご家族の参加があった。当日は、警察の方を招き、「オレオレ詐欺について」話をしていただき、その後、利用者と一緒に茶話会の時間が設けられた。ご家族からの意見をきっかけに、駐車場に柵を設置予定である。2ヶ月毎に「のんき新聞」を発行しており、最後のページには、担当職員からのコメントを載せている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 新しい取り組みの採用や決定、従来のシステムの見直しなどは全体・各フロアミーティングにてスタッフの意見・提案を反映しおこなわれるよう配慮している。ステラがどのような介護を目指しているのか、ステラが向かっていく目標は何なのかなどは随時話し合っている。	
			(外部評価) 月1回、各ユニットごとにミーティングを開き、その後全体ミーティングが行われている。又、「スマイル工場委員会」を月1回持ち、理念である「笑顔であんきな生活」につながるような勉強会が行われている。事務所前の廊下には、職員のプロフィールと顔写真が掲示されており、ポケットには「サンキューカード」が入っていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 一年間を通し自己課題を設定してもらい、それに対し年二回の管理者面接、年一回のホーム長面接を行っている。その結果は実績・勤務状況も考慮したうえ、昇給額に反映させたり、役職を新たに付けるなど、やりがいを持てる職場になるような取り組みを行っている。	
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 適宜施設内研修を行う他、法人外の研修についても出来るだけ積極的に取り組んでもらっている。事務所に研修案内を張り出して告知している他、研修費の法人負担、休みの優遇などを行っている。法人が指名して赴く研修については出張費・交通費・研修費用負担をおこなっている。	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 管理者・職員は外部の研修や相互研修などにて、交流を図り、他事業所の情報の中から自施設にそぐうものを取り入れてサービス向上に役立てている他、他事業所に対し行事などの招待や、遊びに来てください等の声かけを行っている。今治市グループホーム交流会にも参加している。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人とゆっくり関わる時間をもち、暮らしの希望・不安を押し量るよう努めている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始時には十分に話し合う時間をとり、ご家族の思いを受け止め、少しでも不安が軽減出来るよう努めている他、制度や施設について解らないことはないかの聞き取りも行っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用開始時の話し合いの中から、支援の見極めを行うよう努めている他、隠れた緊急のニーズがないか、見落としはないかをアセスメントしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は日々の利用者様の労をねぎらい、利用者様もスタッフをねぎらう・共に支えあうという共有感をもって暮らしている。共にここにいてよかった、ここに住んでよかったと思えるよう利用者職員一丸となって生活がたのしめるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 適宜ご家族様に相談・連絡を行い、共にご利用者様の支援を行うよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 以前の友人の方やご近所の方も気軽に来園されている。買い物など外出の際には利用者様の馴染みの場所を通ったりしている。 (外部評価) ドライブ途中に、利用者が「この裏がうちの家よ」と教えてくれることがあり、近くを廻ってみるようなこともある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	レク・家事等生活の中でそれぞれが関わり合う機会を多くもち、孤立気味のご利用者様にはスタッフが仲立ちをし、良い関係がもてるよう支援に努めている。
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	契約終了時には、今後も気軽にご相談いただくよう声掛けしている。定期的に様子伺いの電話や、面談を行ったりしている。
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	ご本人との普段の会話や、面会時のご家族の話などからの情報のもと思いの把握に努めている。
			(外部評価)	
				入居時には、事業所独自の「サービス事前調査表」の項目に沿って、ご本人やご家族にこれまでの生活の様子やこれからの暮らしの希望等を聞き取っている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	ご本人との普段の会話や、面会時のご家族の話などから情報収集し暮らし方等の把握に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	その時々々の心身の状態の把握に努め、その時々々の有する能力の見極めをするよう配慮している。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) できるだけご家族・本人参加のもと各スタッフが【支援のためのシート】を持ち寄り、検討し合っている。その人らしさを引き出せる計画を立てられるよう研修も行っている。</p> <p>(外部評価) 事前調査やシートにて利用者個々についての情報を集め、担当者会議で検討して介護計画を立てている。カンファレンス時には、情報を資料にして職員で話し合い、ご家族の満足度も含め、3ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月毎の見直しにつなげている。日々の記録を「きずきシート」としており、介護計画番号を記入して「出来事」を書くよう、欄を設けている。</p>	<p>利用者個々のこれまでの暮らしぶりや習慣等を踏まえたご本人主体の支援が実践できるよう、介護計画作成に個々の情報を採り入れて工夫されてみてほしい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 介護記録・日誌・申し送り等で情報を共有している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 母体である幸風園のカラオケルームの利用やデイサービスでの琴・踊りなど行事に参加している。又、希望があれば少人数での外出にも対応している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) スーパー、図書館、念仏講、地域行事などへの参加を通し暮らしを楽しむことの支援をしている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 個々の希望のかかりつけ医を受診している。ご家族との受診の際には、介護要約・個別ケアチェック表等で現状をお知らせし、他科の薬状などと共に主治医に届けていただいている。	
			(外部評価) 入居前からのかかりつけ医を、ご家族が付き添い受診されている。ご家族の都合が悪い時には、有料で職員が同行している。法人の看護師が週1回来て、利用者の健康管理をしている。利用者の様子で心配なことがあれば、併設事業所の看護師に相談しながら対応されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 日常的に併設事業所の看護師に情報を伝え、適切な看護・受診が行われている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 早期の退院に向け、主治医・御家族との情報交換を行い密な連携に努めている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 見取の指針を作成し、説明し御家族と終末期について十分な話し合いを持ったうえ、支援している。	
			(外部評価) 入居時に、「看取り介護及び夜間救急時の指針」に沿ってお話をしたが、ご家族は「今はまだ、ピンと来ない」と言われることが多いようだ。看取り支援の経験はないが、ホーム長は、「事業所としては環境を整えば看取り支援は可能である」と話されていた。又、利用者の状態を見て「メリット、デメリットを話し、利用者やご家族と話し合っ、方針を決めていきたい」と話しておられた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会、書籍回覧等にて学習を重ね、ミーティングや事故対応検討の折など適宜再確認している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を年二回おこなっており、隣接の住宅には避難経路も含め協力体制ができています。	
			(外部評価) 年2回火災想定で避難訓練を実施しており、訓練前には、ホーム長が消防署に出向いて、出火場所や避難方法等についてアドバイスをもらっている。地震に備えて、11月には、居間の危険箇所の点検を行い、収納場所や固定方法等が見直された。備蓄は、法人本部で1週間分が備蓄されている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に一人ひとりの尊厳を意識した、声かけ・対応に努めている。その人ごとの受け入れやすい声かけについて毎月のミーティングなどで検討している。	
			(外部評価) 職員が魚をさばく様子を見て、利用者の方が教えてくれることがある。利用者が行ってくださったことについては、職員が「ありがとう」とお礼を言うようにしている。職員が、利用者の居室に入る時には、必ずご本人に声をかけ一緒に入るように気を付けている。入浴中に脱衣所のドアを開ける利用者もあるため、職員は、「入浴中、開けないで」と貼り紙をしていた。ご自分で洗濯する方には、液体の洗剤は量がわかりにくいいため、粉洗剤を用意されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご家族からの情報や御本人との普段からの会話のから、その思いを引き出すよう、また、気兼ねなく、希望を言っていたけりような雰囲気づくりをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 就寝・起床・入浴・食事等できるだけ、思いのまま過ごせるよう配慮している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎朝の化粧・髭そり等の整容、行事等の外出時にはそれにあつたおしゃれができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 普段の関わりの中、ご家族の情報などから食事の好みの把握に努め、買い物に出かけたときに食べたいものを買ったりし、一緒に準備・片付けをしている。	
			(外部評価) 朝・昼食は、法人の厨房から届くようになっており、事業所で配膳している。夕食は、各ユニットで手作りしている。食材は、2～3日に1回、利用者と近くのスーパーに買い物に行かれている。利用者の状態に応じて、食べやすいように小さいおにぎりにしたり、おかゆを好む方にも応じて支援されている。受診等があり、遅れて食事する方には、お汁をレンジで温めてから配膳していた。昼食後、ご自分の食器を台所まで下げている方も見られた。職員は各自お弁当を利用者と一緒にテーブルで食べていた。月1回は、外食する日を作っている。お芋の好きな方は、職員とお芋を買いに行つて、ご自分で料理しておられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 職員は個々の利用者様の食事・水分量の把握ができており、どのようなものが利用者様にとって喜ばれる食事であるか本部の栄養士並びにステラの栄養士資格保持者にも指示を仰ぎつつ献立を考えている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、個々に応じた口腔ケアを支援し、口腔状態を把握、適宜歯科受診もおこなっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表・表情・動作から、排泄パターンの把握に努め、排泄の自立にむけた支援をおこなっている。おむつから紙パンツへ、布パンツへといった取り組みをしている。	
			(外部評価) 紙パンツを使用した状態で入居された方も、排泄のパターンを把握してトイレ誘導をしながら、布パンツ使用で過ごせるように支援している。足元が不安定な方は、夜間トイレに行く時には、コールを鳴らしてもらって職員が付き添うようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 職員は便秘の原因や影響を理解し、できるだけ自力で排便できるよう、運動・食事・タイミング等の工夫をしている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 概ね午後が入浴の時間になっているが、希望にあわせどの時間にも入浴できるよう支援している。 基本的に本人の習慣・意志にて入浴されている。	
			(外部評価) 基本的に2日に1回、入浴できるように支援している。ひとりで入浴できる方の中には、希望で毎日入浴する方もある。利用者の中には、他者が入ってこないように鍵をかけてひとりで入浴する方があり、職員は浴室の外から声掛けしながら見守っている。好みのシャンプーやボディソープを持ってきている方もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ご本人の習慣の継続を意識し、そのリズム・その日の体調にあわせて休息してもらっている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 介護記録のファイルに処方箋をとじており、服薬の変更時には申し送り・記録の徹底をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人ごとのしたいことを把握し、実行できるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日ごろの会話から希望を聞き出すよう心がけ、日々の外出先を決めている。現在のところ、地域の方には外出時同行等の協力得られてないが散歩のときには挨拶をいただいたり、安全な歩行の協力をいただいている。	
			(外部評価) 近所の薬師堂や弁天様に毎日お参りに行く方があり、お賽銭をあげる方もいる。食材の買い物時には、職員と一緒に行って、おやつや日用品、自分の食べたいものを買ったりされている。梅、サクラ、バラ等、季節の花を楽しみに出かけたり、法人施設のカラオケルームに出かけてカラオケを楽しむこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 少額ではあるがお小遣いをお持ちになっているご利用者様もおられる。そこから日用品や、嗜好品のなど買い物をされている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 事業所からの電話連絡の折にはご利用者様にも取次し、会話を楽しんでいただけるよう配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 季節ごとにフロアの装飾を変えており、心地よさを感じる飾り付けを心がけている。その時期の花を飾ったりすることで季節感を取り入れている。</p> <p>(外部評価) 併設の小規模多機能事業所と共有の玄関になっている。入り口に感染予防のため手洗いできるように、手洗い場が設けられている。居間には、クリスマスの飾りや利用者作の塗り絵や習字が貼ってあった。調査訪問時、テーブルで新聞を読んでいる方や新聞のチラシでゴミ箱を折っている方が見られた。居間には、複数のテーブル席と、ソファやいす等が配置されており、昼食後は、ソファでくつろぎながらテレビを見ている利用者がいた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) フロアにはソファ・テーブル・椅子を多数配置し、疲れた時や休みたいときいつでも休めるようコーディネートしている。見守りがしやすい場所だけではなく内緒話も自由に心おきなくできるようあえて死角に入る休息場所も作っている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 使い慣れた家具等の持ち込みを勧めている。ベッドやダンス等はそれぞれ好みに配置して頂いており、家族様の写真を飾られている利用者様も多い。</p> <p>(外部評価) 布団は事業所で準備しているが、毛布や好みの布団を持ってきている方もある。好みに枕を2個重ねている方もあった。各部屋には、ご家族が加湿器を用意しており、必要に応じて使用されている。ご自分が手に取りやすいように、ベッド柵にかごを吊るして、ティッシュやくし、化粧水を入れている方があった。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 各所に手すりを設置、階段も狭めにとり左右の手すりが見えるように工夫している。 居室内は適宜身体機能にあわせ、家具の配置を工夫し安全にかつ自立した生活が送れるよう配慮している。</p>	